

妹背牛町に新地域おこし協力隊着任



人口30万人の旭川市から3千人弱の妹背牛町へ。4月1日付で地域おこし協力隊に着任しました、芳形吾一（よしかた・ごいち）です。15年間ほど北空知新聞社に務めた経験を生かし、主に広報誌の発行業務を担当させていただきます。

冒頭で人口比に触れましたが、私の出身はお隣の深川市・音江町で、生粋の田舎者です。まだ道路に雪が残る3月9日に引っ越しました。庭先に迷い込んだキツネにはしゃぐ、旭川育ちの妻と2人でのどかなスローライフを満喫しています。

新天地では町を盛り上げる情報発信を一つの目標に掲げていますので、町民の皆さん、取材先で話しかけられて驚かすこともあると思いますが、これからよろしくお願いします。



モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ vol.33



田村翔惟です。今回の翔たいむは、町民会館で「詩吟」を体験してきました。

「日本詩吟学院北海道中央岳風会深川吟詠会妹背牛道場」は昭和35年に創立。現在は6人の会員がおり、毎週木曜日の夜に町民会館の二階で活動しています。主な活動内容は段位取得を目指すほか総合文化祭でも発表を行うため、日々練習に励んでいます。

指導してくださる先生方は、北井欣一さんと水上明さん。北井さんは昭和54年1月に入会し、40年以上の長きにわたり活動してきました。水上さんも平成10年に入会し、師範として妹背牛道場で指導されています。

道場を訪れるとさっそく声出しも兼ねて、まずは全員で合吟（みんな一つの詩を歌う）。皆さんの想像以上の声量に圧倒されて固まってしまいました。後を追う形で歌っていききました。面白いことに歌っていくうちに周りの人の声につられて、だんだんと声が出るようになっていきま。みんなで歌うと多少間違っても目立たないので初めての方でも安心です



詩吟の体験

3/31 妹背牛町民会館

ね。
次は水上さんの計らいで、いきなりひとりで歌うことに。詩には吟符（音の伸ばしや高さなどを指示するガイド）が振られていましたが、なかなかうまくいかず。途中で北井さんたちのジェスチャーなどのアシストもあり、なんとかひとりで歌いきることができました。

今回は詩吟の大会でも課題となっている3つの詩を練習しました。詩とは言ってもそれぞれでジャンルが違います。詩吟は、漢詩や和歌を中心に俳句や現代詩などを詩の型に捉われず、さまざまな詩に節をつけて歌うもので、詩のジャンルによってリズムや吟符のつけ方も違うそうです。また、詩の意味がわかるともっと感情を込めて歌うことができるそうで、奥深い世界なんだなと感じました。

今回の体験を通して、またひとつ自分の知らなかった世界を知ることができてよかったです。取材にご協力していただいた妹背牛道場の皆さん、ありがとうございました。

